

＜回復へ導く光＞

イザヤ9：1～7



人を造られた神、造り主の心

わたしの目にはあなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。

【イザヤ書の時代背景】 キリスト誕生の700年前

- ・アッシリヤ帝国の脅威におびえ、国の滅亡の危機。将来に対する希望など持てない暗く、闇に覆われた時代。神に対する信頼も失墜し、自分たちにとって耳触りの良い言葉や、目先の助けにしがみついた。

闇の中を歩んでいた民は、大きな光を見た。

死の影の地に住んでいた者たちの上に光が照った。【2節】

光は遮るものがなければ、どこまでも届いていく！

そして、神のことばは地の果てまで届く光のよう。

【ゼブルンの地、ナフタリの地】

ヨシュアの時代にゼブルンと、ナフタリの部族が相続した地。しかし紀元前8世紀、この地があった北イスラエル王国は、アッシリヤ帝国の侵略を受けて滅亡。その後異民族が移住し、信仰も衰え「異邦人のガリラヤ」と呼ばれるほど荒廃した。

しかし！ この「異邦人のガリラヤ」でイエス・キリストの宣教が開始。

神殿のあるエルサレムではなく、あのガリラヤで・・・？！

神の御心は、人には測りがたい・・・

天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、
あなたがたの思いよりも高い。 イザヤ 55 : 8、9

神の目的は「回復」 神と人との壊れ関係の回復。

【マタイ 4 : 12～17】

イエスは、ガリラヤへ立ちのかれた。そしてナザレを去って、カペナウムに来て住まわれた。
ゼブルンとナフタリとの境にある、湖のほとりの町である。これは預言者イザヤを通して言われた事が、
成就するためであった。すなわち、「ゼブルンの地とナフタリの地、湖に向かう道、ヨルダン川の向こう
岸、異邦人のガリラヤ。暗闇の中にすわっていた民は偉大な光を見、死の地と死の陰にすわってい
た人々に光が上った。」この時からイエスは宣教を開始して、いわれた。「悔い改めなさい。天の御
国が近づいたから。」

「悔い改め」は向きを変えること。

光を遮る闇の中ではなく、光に照らされた道を歩く。
わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。

ヨハネ 8 : 12

光りはやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。 ヨハネ 1 : 5